

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 24 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350403

研究課題名(和文) 金平亮三の教育研究史—標本コレクションと大学文書からの精査

研究課題名(英文) Research history of Ryozo Kanehira: re-evaluation from his collection and university documents.

## 研究代表者

三島 美佐子 (Mishima, Misako)

九州大学・総合研究博物館・准教授

研究者番号：30346770

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、金平に関する国内外での記述、金平による標本コレクション情報および大学文書の精査分析を元に、金平の国内外での足取りや実績そしてその研究史を、学術的・社会的・歴史的側面から総合的に再評価すると同時に、当時の大学教官における植民地化政策に関わる学術的関与の実情を明らかにすることである。本研究では、金平の標本コレクションや研究業績のDB化、金平にゆかりの深い台湾とインドネシアで予備的な現地調査、学内関連部局内の調査などを行い、これにより、新たな標本資料や描画・写真等の貴重資料の発見、現地在職時の貴重な証言等を得る事ができ、これまでに明らかでなかった金平の人となりなどがわかってきた。

研究成果の概要(英文)：Purposes of this study are as follows: clarification of the history of research and education by Kanehira, making database of his botanical collection, and clarification of the situation of researchers like Kanehira at the University under World War II. Digitalization of the specimen information and his research papers, field survey at research institutes in Taiwan and Indonesia where Kanehira has been ever in office, and reinvestigation in related laboratories in Kyushu University were carried out. Several specimens, drawings and photographs were discovered and important verbal evidences were collected. As a result, new information is coming clear, for example, Kanehira's good personality, his precise footnote in foreign field, and so on.

研究分野：植物系統学

キーワード：金平亮三 研究史 大学史 植物標本 林学 分類学 描画

## 1. 研究開始当初の背景

金平亮三は、1920年代～1940年代中盤まで活躍した林学者である。台湾総督府などを経て1928年九州帝国大学教授、大戦中はインドネシアボゴール植物園ハーバリウム長、戦後GHQ天然資源局につとめた。特に台湾在職時代の樹木研究(『台湾樹木誌』金平1917ほか)が高く評価されており、台湾林業の礎を築いた人物として、現地では今なお尊敬されている。また、九州大学(以下九大と略)在職時の南洋群島植物調査が著名であり(『ニューギニア探検』金平1942)、現在も九大が所蔵している金平の押し葉、果実、材管、切片プレパラート、乾板など標本約1万点は、世界的に著名なコレクションとして知られている。

その反面、金平その人の人物像や研究史については、これまでほとんどまとめられてきていない。金平の台湾時代については、呉(2008, 2012)が、台湾林学史の視点からその実績を評価しているが、日本の分類学研究の研究史や人物史をまとめた北村(1990)においては、金平の履歴や主な文献出版等が6ページにわたり時系列で列挙されているにとどまる。金平の死去からすでに半世紀以上が経過し、金平を知る人が高齢化し年々少なくなる中で、急ぎその業績と貢献を再評価し記録しておくことは、植物の分類学史・林学史上重要である。同時に、金平の辞令や、金平をはじめとする当時外地を往来した九大教官の出張記録などの大学文書を精査することは、金平自身の研究史を明らかにする上で必要であるとともに、当時の日本の社会情勢や大学の教育研究史との関連においても新たな発見の可能性もある。

近年大学からのアウトリーチが盛んになるにつれ、大学が持つ標本資料や研究史に対する一般からの興味が高まってきている(三島2009など)。過去の九大博物館での来場者からの質問や会場での会話などからすると、来場者は、単に標本自体の基礎情報のみならず、その標本にまつわる「物語」に興味を持っていることがうかがえる。そのような、標本を用いる側である基礎研究者には通常ない「ユーザー視点のニーズ」に応えるためには、当該標本や研究にまつわる社会的・歴史的背景、大学における研究史、そして当時の研究者の人となりがかかるような史実を明らかにすることが必要である。

同時に、このような史実を明らかにしておくことは、現代のグローバル社会における大学博物館の役割としても重要である。例えば、加藤(1998)は、旧植民地における図書館を主とした文化機関について、戦争への加担という問題意識からとらえなおしている。金平のコレクションのように旧植民地から収集された資料について、学術的な背景や意義とは別に、収集の歴史的背景や経緯をきちんと

した調査データを元に明らかにしておくことは、ひきつづきこれらのコレクションを研究・公開していく上で必須の基礎情報になると同時に博物館倫理上必至であると私は考えている。

以上のような背景により、本研究を着想するに至った。本申請段階では、国内レベルの資料や情報の徹底調査が必要な段階であるが、知見の蓄積に伴い、金平の履歴が残る台湾、オセアニア、インドネシアなどでの現地調査が必要になると予想される。本申請ではそれらに備え、国外資料の収集にも着手するものである。

## 2. 研究の目的

上記の背景等をふまえ、本研究では、金平の国内外での足取りや実績および標本コレクションの精査・分析から、その研究史を学術的・社会的・歴史的側面から総合的に再評価すると同時に、当時の大学教官における植民地化政策に関わる学術的関与の実情を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究では、以下4項目を中心に調査・分析をすすめ、全ての資料をデータベース化することとした：

- i. 資料の網羅・収集：金平による執筆物(文献、書籍、随筆等)および金平に関する記述の網羅・収集
- ii. 金平の調査歴の精査：標本に記載されている情報や大学文書からの精査
- iii. 既存資料の再精査：金平が所属した旧林学教室にある資料の再精査、農学部演習林にある資料の再精査
- v. 台湾・ミクロネシアなど関連する外地に関する資料の収集

## 4. 研究成果

- i. 資料の網羅・収集：
  - ・金平による植物標本コレクションのうち、約1万件のさく葉標本について、標本の画像データ化およびラベル情報データベース化を実施、九大着任以前の調査履歴、九大着任後の南洋群島調査時の詳細な調査履歴等を俯瞰できる素地ができた。
  - ・金平による研究論文情報のデータベース化および一部文献のデジタル化を行い、金平の研究履歴を俯瞰できる素地ができた。
- ii. 金平の調査歴の精査：
  - ・金平による研究論文情報および植物標本コレクションのデータベースに基づき、金平の調査歴年表を作成することができた。
  - ・文書館所蔵の当日の在職者資料のデータ化と調査により、金平在職時の技術職員等が明らかになった。
- iii. 既存資料の再精査：
  - ・旧林学教室にある材鑑資料の現存状況を確認し、また、これまで知られていなかった

た描画および写真資料を発見することができた。描画資料については画像化とデータベース化を行い、研究論文や植物誌との対応付けを行う素地ができた。

・農学部演習林より、これまで所在が不明であった果実標本資料等を発見、整理することができた。

v. 金平がかつて在職した台湾・インドネシアの研究所を訪問調査し、現在に残されている資料等の確認や、当時の証言等を得る事ができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

三島美佐子, 松村順司, 内海 泰弘, 堀優子. 「金平亮三の教育研究史: 教育研究資料からの精査(予報)」, 大学博物館等協議会 2015 年度大会・第 10 回博物科学会 大会案内・要旨集: p.44. 金沢市, 2015 年 6 月.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

その他の執筆

三島美佐子・折田悦郎・松村順司・吉田茂二郎「九大博物館での研究紹介 科学研究費補助金による研究: その 8 金平亮三の教育研究史 - 標本コレクションと大学文書からの精査」, 九州大学総合研究博物館ニュース 21: 6. 2014 年 3 月.

科研シンポジウム兼博物館セミナー

「金平亮三とその時代の大学史」

日時: 2016 年 3 月 28 日(月) 13 時 30 分

~ 17 時 30 分、

場所: 箱崎キャンパス 2 1 世紀交流プラザ 1 多目的ホール.

プログラム:

13:30-14:05 「はじめに ~ 金平亮三の教育研究史」 三島美佐子 (九州大学総合研究博物館)

14:05-14:55 「九州帝国大学農学部のアジア調査研究」 藤岡健太郎 (九州大学百年史編纂室)

15:00-15:50 「占領期インドネシアにおける博物館と金平亮三」 福田睦子 (國學院大学大学院文学研究科 / めぐる歴史資料館) 15:55-16:35 「大学史における記録資料研究の重要性と今後の可能性」 折田悦郎 (九州大学文書館)

16:35-17:30 ディスカッション

主催: 九州大学総合研究博物館 / 基盤研究(C) 課題番号 25350403 (代表 三島美佐子) 「金平亮三の教育研究史 - 標本コレクションと大学文書からの精査 -」 / 共催: 基盤研究(C) 課題番号 15K04237 (代表 藤岡健太郎) 「帝国大学農学部の形成と展開に関する研究 九州帝国大学農学部を中心として」、協力: 九州大学文書館

成果の展示公開

1. 2014 年度九州大学総合研究博物館公開講演会連動ミニ展示 「科学と芸術のはざま - 金平亮三の植物描画 -」

(本研究で発見された金平直筆と思われる描画と、それに関連する文献資料および実物標本を展示)

期間: 第一期 2015 年 2 月 21 日(土) ~ 3 月 27 日(金)、第二期 ~ 4 月 8 日(水). 10:00~16:30 土日は、2/21(土)、22 日(日)のみ開室

場所: 九州大学総合研究博物館常設展示室 (九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館 3 階)

入場: 無料

主催: 九州大学総合研究博物館 / 共催: 九州大学大学院農学研究院木質資源科学研究室 / 協力: 鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館 / 日本学術振興会科学研究費補助金

2. 中央図書館シリーズ展示 「標本にみる九州大学の研究」 第四弾 「九州大学の植物標本 | 金平コレクション」

(金平亮三のコレクションから、本研究で発見された金平直筆と思われる描画と、それに関連する、演習林から新たに発見された標本を含む実物標本を展示)

期間: 2015 年 4 月 13 日(月) ~ 7 月 9 日(木)

時間: 平日 8:00~22:00、土日祝日 10:00~18:00

場所：箱崎キャンパス中央図書館 2F エントランス常設展示コーナー  
監修：総合研究博物館 三島美佐子 / 主催：九州大学中央図書館 / 共催：九州大学総合研究博物館 / 協力：農学部木質資源科学研究室 / 日本学術振興会科学研究費補助金

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

三島美佐子 (Mishima Misako)  
九州大学・総合研究博物館・准教授  
研究者番号：30346770

### (2) 研究分担者

折田悦郎 (Orita Etsuro)  
九州大学・人文科学研究院・教授  
研究者番号：10177305

### (3) 連携研究者

松村順司 (Matsumura Junji)  
九州大学・大学院農学研究院・教授  
研究者番号：70243946

### (4) 連携研究者

吉田茂二郎 (Yoshida Shigejiro)  
九州大学・大学院農学研究院・教授  
研究者番号：80128462